

彌々疎開の緊要を痛感せしめてゐる。

若し地方に分散せる工業が前述した中核的工業地域の工業と種類に於ては數量に於ては互に相補は合つて一個の純体をなす如く按配され、勞務食糧に關しては極力自給自足すべきものとして經濟的自給圏が設定せられらば、交通に對する負荷を減じ、防空上の強靱性を増して戦力増強に役立つこと大なるを思はしめられた。

素より斯の如き自給圏が一朝にして完成され得ないこと瞭かであり、恒に全國的調整を必要とすると言ふ迄もなく、後述するところの農工調整上の施策はかゝる自給圏の設定を前提として初めて有效となるもの

が多々ある。例へば、勞務に關する工場と農村との間の相互補強的措置は勞務者の出身地が工場に近い程容易である。地区設定は長期建設的課題であると共に差に當つての決戦態勢整備の爲の問題である。

六、國土の計畫的合理的利用の爲には當然農耕地の莫大な面積が圍ひ込まれておくことが問題になつた。これは工場の配置と共に規模に關すること大なる問題であり、それは農工が近接する場合農工調整上第一の問題である。

工場の規模は近年著しく擴大し、以前は數地數千坪の工場といへば大工場、萬坪といへば超大工場であつたが近頃出來たものは遙かに大きく飛行場を有するもの